

書評

坪田紀明 著

イラストレイテッド肺癌手術 手技の基本とアドバンス・テクニック [DVD 付] (第2版)

第61回日本胸部外科学会会長/福岡大学外科教授

白 日 高 歩

坪田紀明先生は今日、わが国の肺外科手術を代表する第一人者である。わが国における肺外科の技術は、かつての肺結核外科を継承する形で今日に伝えられてきた。評者らの若い頃(昭和40年代)にはまだ呼吸器外科手術では肺結核が主体であり、連日各種の区域切除や胸郭形成術が国内各施設で行われていた。もちろん肺葉切除がすべての手技の基本であり、当然肺全摘も今日以上に高頻度を実施されていたという記憶がある。やがてそれらが肺癌手術にとって代わられると、一時期ほとんどの手術が肺葉切除に限られるという印象であった。呼吸器外科医としての私は、これは自分たちの技術的發展を阻害し、外科医としての役割の放棄につながる現象で決して歓迎されるものではないという危機を持つようになった。いかに肺

葉切除が肺癌手術の基本であっても、この手術ばかりで日々を過しては何の成長ももたらされないのである。

当時の拡大手術一辺倒の風潮が徐々に修正され、患者の機能損失を出来る限り小さくするための縮小手術も必要との認識が、外科領域全体により浸透しつつあった。そのような雰囲気のもとに実際的な説得力を持って登場してきたのが、坪田先生の提唱する拡大区域切除術の概念であった。外科医は技術的な向上を常にめざすことが義務であり、若い人にとって難しい高度な手技への挑戦は向上への夢を与えるものである。各種区域切除は呼吸器外科医にとって、肺葉切除と並んで習得されるべき必須の技術のはずである。

今回出版された『イラストレイテッド肺癌手術』の第2版は、こ

の区域切除を含めて肺葉切除、気管支形成手術、肺全摘など、手技的向上をめざすすべての呼吸器外科医の要望に応える内容で世に出された。第1版とはさらに装いを新たに、DVDによる坪田先生の実際の手術の動画と手技解説(ナレーション)まで付け足されて提供されている。これを手にする人は先生の独特のハサミの持ち方、カード型小開胸器での術野展開、摘出肺領域に空気を送って切除する区域間切離の方法などを映像として詳しく学ぶことができるであろう。詳細な図譜で手技を理解しようとしても一定の限界を感じるはずの若い人たちにとって、現実の映像でその實際を学べることは、何という恩恵であろうか。新しい映像時代に生まれた彼らをうらやましながらにはおれない。それと同時に、このような優れた手術書が世に送られることで、わが国のすべての若手呼吸器外科医が確固とした技術的基盤を与えられて、より大きく成長していくことを信ずるものである。

〔A4 頁216 2007年 定価
18,900円(本体18,000円+税5%) 医学書院刊〕